

SLOC のロコモ普及啓発活動

二階堂 元重

【目的】超高齢社会を背景に、ロコモティブシンドローム（以下「ロコモ」）は、「メタボ」や「認知症」と並び、「健康寿命の短縮」の3大要因のひとつになっており、医療介護の社会的コストも加速度的に増大している。今後健康寿命を延伸させるとともに医療介護費用を抑制してゆくためには、ロコモ対策（予防、早期発見・早期治療）が大変重要になる。ロコモ予防事業による医療介護費削減効果は年間約5,000億円と試算されている。

【方法】SLOC 全国ストップ・ザ・ロコモ協議会は、JCOA 会員有志が起点となって立ち上げたロコモ対策事業に特化したNPO 法人で、2013年1月に東京都の認可を得て正式に発足し、現在まで以下に示す社会貢献活動を行っている。

【結果】(1)ロコモに関する普及広報事業：①「全国市民公開講座(ロコモキャラバン)」開催、②ホームページの管理・運営、③行政への啓発・普及、自治体などを対象に全国規模アンケート調査の実施、④ロコモ講演会等への講師派遣。(2)ロコモに関する教育研修事業(「ロコモコーディネーター」の養成)：各自治体と連携の上、現場でのロコモ予防活動に携わるボランティアなどの養成、教育、派遣などの調整役(コーディネート)を担う有資格者の養成に取り組んでいる。(3)「子どもロコモ」啓発事業：子ども「運動器機能不全」の病態について学校医・養護教諭・保護者と連携の上で調査、報告するとともにそのスクリーニング体系について検討し、「学校保健における運動器検診」への対応を視野に入れている。

【考察】本法人はロコモ対策の効果を向上させ、地域による格差をなくす目的で、全国のロコモ対策に携わる各職種に対し正しい情報を提供し、能力の向上を図る事業を行っている。結果、日本の健康寿命を延伸させるとともに医療介護費用抑制に寄与してゆきたいと考えている。